

### 2010年度までに二酸化炭素排出量を1%削減

#### 中期経営計画の重要なテーマとして環境保護に取り組みます

地球環境に関する国際的な取り決めである「京都議定書」の内容を達成する約束期間が2008年から始まり、また7月に催される「洞爺湖サミット」が京都議定書後の仕組みについての重要な話し合いの場になるなど、地球環境問題への関心が高まっています。地球環境への取り組みが企業経営課題における重要性を増すなかで、ヤマトグループとしての目標と取り組みをまとめましたのでその内容をご紹介します。

ヤマトホールディングスでは、「満足創造3か年計画」において、その基本戦略の柱の一つとして「環境対応の強化」を掲げています。このたび、その取り組みの目標と実施策をまとめました。

これは、ヤマトグループ全体の2010年度のCO<sub>2</sub>排出量を2006年度比1%削減しようというものです。「満足創造3か年計画」に沿って事業が拡大した場合、従来どおりの環境対応では、2010年度のCO<sub>2</sub>排出量は2006年度比6%増が見込まれているため、3年間で実質7%の削減を目指すこととなります。また、ヤマト運輸(株)が2003年に発表している「ヤマト運輸地球温暖化防止目標」で目標としてきたCO<sub>2</sub>排出総量の2002年度比99%への抑制を2年前倒しし、2010年の達成を目指します。

具体的な取り組みとしては、ハード面で、ハイブリッド車の導入など低公害車の導入をより進めるとともに、太陽光発電の導入を積極的に検討します。ソフト面では、集荷・配達の際に車両を1か所に停車し周辺に台車などで配達する「バス停方式」を住宅密集地区で導入するほか、地域にあわせて環境負荷の低いデリバリー方式を導入します。また、グループ社員の通勤にも環境保護の考え方を導入する方策を考えています。このほか、長距離

輸送をトラックから鉄道に切り替える「モーダルシフトの促進」や、お客様企業とともに環境負荷低減をめざす「リターナブル梱包資材の導入」などにも順次取り組んでいきます。

このほかにも、社会の多くの方々に、環境保護の大切さを理解していただく活動に取り組んでいます。ヤマト運輸(株)では、2005年10月から、子どもたちの環境教育へのサポートを目標に「クロネコヤマト環境教室」を開催しています。授業で運輸・環境を学習する小学校5～6年生を対象に、社員が学校に出張して「地球温暖化」をテーマとして教室を開くものです。また、2006年12月には、小学校低学年向けに地球温暖化についてわかりやすく説明した紙しばいとシールブック「がんばるヤマトくん」を制作し、活動の場を広げています。



ハイブリッド車を積極導入